

平成 23 年 10 月 12 日

各 位

会 社 名 テ ラ 株 式 会 社
代 表 者 名 代表取締役社長 矢崎 雄一郎
(コード番号：2191)
問 合 せ 先 取締役管理本部長 山本 龍平
電 話 0 3 - 6 2 7 2 - 6 4 7 7

国立国際医療研究センターと共同研究契約を締結 ～臨床データの収集・解析を目的とした樹状細胞ワクチン療法の導入～

当社は、この度、独立行政法人 国立国際医療研究センター（東京都新宿区、以下「NCGM」）と、樹状細胞ワクチン療法※の技術開発及び臨床応用に関する研究を行うことを目的とした共同研究契約を締結いたしました。

当社の樹状細胞ワクチン療法を中心とするがん治療技術・ノウハウを NCGM に提供することで、国立国際医療研究センター病院（東京都新宿区、以下「センター病院」）において樹状細胞ワクチン療法を導入し、共同で臨床データの収集・解析を行ってまいります。

NCGM は、国の政策医療の中心としての役割を果たす、日本に 6 法人ある国立高度専門医療研究センターの一つです。高度総合医療を担うセンターとして、高度総合医療、国際的感染症、国際医療協力に対応すべくあらゆる診療科を備えた総合病院部門と、14 部からなる研究所等を擁しており、2010 年 4 月の独立行政法人化以降、中期目標として、「臨床を志向した研究・開発の推進」、「病院における研究・開発の推進」等を掲げ、臨床開発・研究を推進しております。

この度の共同研究により、当社と NCGM は、より安全で効果的な治療法の研究・開発のため、がんに対する樹状細胞ワクチン療法をセンター病院へ導入し、臨床データの収集・解析を行ってまいります。また、本研究の進展を通じ、新たな細胞治療の開発につなげてまいります。

なお、臨床データの収集・解析は、NCGM を中心とした臨床研究の推進を役割とする国際臨床研究センターの医療情報解析研究部が統括・実施する予定です。

当社が強みとする樹状細胞ワクチン療法の技術・ノウハウは、東京大学医科学研究所で研究開発された技術をもとにしており、現在では国立医療機関や大学病院を含め、全国で 18 の医療機関に提供されております。その培養技術や実績が評価され、NCGM とこの度の契約締結にいたりました。これにより、NCGM は、当社が技術・ノウハウを提供する 19 カ所目の医療機関となります。なお、NCGM における樹状細胞ワクチン療法の提供開始は、2012 年春以降を予定しております。

当社と NCGM は、樹状細胞ワクチン療法の提供開始に向けて、患者のみなさまに安心して治療を受けていただくための環境を整えるため、施設の整備や医師、看護師等の教育を進めるとともに、外部の有識者の協力を得て、患者の QOL 向上に向けた総合的なサービスの提供についても検討してまいります。

当社は今後も、樹状細胞ワクチン療法についての研究開発を推進し、多くの患者のみなさまに貢献できるように努めてまいります。

今回の契約締結による当連結会計年度の業績への影響は軽微であります。なお、来期における当社連結業績への影響見込みにつきましては、平成23年12月期の決算発表時の連結業績予想に織り込んで開示する予定です。

【※】 樹状細胞ワクチン療法

本来、血液中に数少ない樹状細胞(体内に侵入した異物を攻撃する役割を持つリンパ球に対して、攻撃指令を与える司令塔のような細胞)を体外で大量に培養し、患者のがん組織や人工的に作製したがんの特徴を持つ物質(がん抗原)の特徴を認識させて体内に戻すことで、樹状細胞からリンパ球にがんの特徴を伝達し、そのリンパ球にがん細胞のみを狙って攻撃させる新しいがん免疫療法です。

◆ご参考

【独立行政法人 国立国際医療研究センターについて】

- 名 称 独立行政法人 国立国際医療研究センター
- 住 所 東京都新宿区戸山1-21-1
- 設 立 1974年（2010年4月より独立行政法人）
- 代 表 者 総長 桐野 高明

以 上